

いつまでも美しくありたいと願う 女性の心に応える

装粧品は女性を美しくする道具

装粧品のことを小間物とも表現します。小間物は江戸時代から使われている言葉です。ただし、具体的な特定の商品を指す言葉ではありません。日用品、化粧道具、装身具など、女性が日ごろ必要として持ち歩いたり身に付けている、細々とした品全体のことです。江戸時代であれば簪、楊枝、扇子、和裁道具なども総称して小間物と呼んでいました。現在でも白粉や現代風のイヤリング、ヘアバンドなど女性の装飾用品全般を指して使われています。

明治になり、西欧から当時の日本人には馴染みのない珍しい品々が輸入されるようになります。ハンドバッグ、石鹸、歯磨き、さらには紅茶やコーヒーといった食品までが西洋小間物と呼ばれました。こうした品々を扱う店を小間物店といました。そこで扱われていた小間物を分類すると、頭飾品、化粧用具、装身具、和裁用具、化粧品などになります。

明治24年、京都で重要物産産業連合会の大会が開かれたことをきっかけに、県下の重要物産である織物、陶磁器、漆器、製紙、銅器の5業に敷物と雑貨を加えた名古屋五二会が結成されました。そして



雑貨部門に小間物・袋物部会が設けられました。この雑貨部門から小間物、袋物、化粧品などがそれぞれ独立し、大正9年に単独組合を結成し、小間物部会は名古屋小間物卸商組合として誕生しました。

女性のファッションは時代を映す鏡

昭和15年、商業組合法に基づいた名古屋小間物卸商組合を設立し、翌年には豊橋、岡崎をはじめとして県下全域の企業を含めた愛知県小間物雑貨卸商業組合に改組、当時の組合員は160名にも及びました。戦中、戦後の混乱期を乗り切った組合は昭和30年に小間物の名称を装粧品に変え、組合名も名古屋装粧品卸協同組合としました。

女性のファッションは時代を映す鏡といわれ、装粧品の内容も時代と共に大きく変化してきました。しかしいつまでも美しくありたいと願う女性の心に変化はありません。組合も女性のための新商品の開拓に、これからも努めていきます。



DATA ■名古屋装粧品卸協同組合

所在地：中区栄三丁目22番26号

- ・大正9年：名古屋小間物卸商組合を設立
- ・昭和15年：愛知県小間物雑貨卸商業組合に改組
- ・昭和30年：名古屋装粧品卸協同組合に名称変更